



皆さん、日本一低い山「天保山」について詳しくなってきましたか？
天保山のうつりかわりは港区の変遷を映し出しているようですね。おはなしはもう少し続きますのでおつきあいください。



天保山のおはなし 第四話

大正から昭和にかけて、安治川口の天保山周辺で築港事業が進められていきます。財政事情、そして軟弱な地盤による難しい工事ということも影響し、なかなか工事は進みませんでした。徐々に天保山周辺には工場や倉庫が建つようになります。



大阪市大観「安治川の汽船」

昭和初期の好景気時には輸出入貨物の築港利用が増大し、物流の拠点として大いに活気付きます。

1938年（昭和13年）～1939年（昭和14年）には、商工業都市となった大阪の表玄関として貨物取扱量等が日本で最大となるまでに成長しました。

しかし、1945年（昭和20年）の大空襲をはじめ、室戸台風やジェーン台風などによる度重なる浸水被害を受けるなど、港区は大きな災害に見舞われます。

戦災と水害を超えてさまざまな出来事を見つづけてきた天保山は、1958年（昭和33年）に天



大正14年建設当時の「築港赤レンガ倉庫」

保山公園として一帯が整備されます。江戸時代の頃のように松や桜が植えられて憩いの場となりました。

この間も地下水のくみ上げなどで天保山の標高は下がっていき、1986年（昭和61年）にはついに4.5メートルになってしまいました。

天保山公園の正面入り口から右に向かって木立をぬけると「天保山跡の碑」が立っています。



1972年（昭和47年）大阪市建立